

■講演会 於 当館講座室

「韓国の土器文化からみた日本」十月二十四日(日)午後二時

講師・京都文化博物館 定森秀夫氏

「海を渡ってきた陶人たち」十二月二十二日(日)午後二時

講師・大谷女子大学 中村 浩氏



—特別展—  
海を渡ってきた

# 陶人たち

平成五年十月十七日(日)～十月二十八日(日)

■開館時間／午前九時三十分～午後五時 ■休館日／月曜日・祝日の翌日

■観覧料／大人五〇〇円(四〇〇円) 高大生二五〇円(二〇〇円)

小中生一〇〇円(八〇円) (内は二〇名以上の団体割引料金)

## 吹田市立博物館

大阪府吹田市岸部北4丁目10番1号  
電話(06)33815500

### ■交通案内

JR岸辺駅下車徒歩二〇分

JR吹田駅 阪急吹田駅から桃山台駅前ゆき、

山田燈切山ゆきバス「五月が丘」下車徒歩八分

阪急山田ゆき、摂津ふれあいの里ゆきバス

千里中央ゆき、「岸部」下車徒歩十分

阪急南千里駅から「JR吹田ゆきバス」「五月が丘」  
下車徒歩八分





◀吹田32号須恵器窯跡

▶池の上6号墳の須恵器



海を渡ってきた

# 陶人たち

5世紀の前半、それまで軟質の上器しか知らなかった日本列島に、大規模な窯を築いて灰色素焼きの硬質陶器を焼く技術者集団が、朝鮮半島からやって来ました。かれらを陶人テウジンといいます。

九州に渡ってきた陶人たちは、やがて北部九州の朝倉地方と、さらに瀬戸内海を東進して大阪平野に大規模な窯場を構築し、大量に生産を開始しました。そのような流れのなかでも、四国・中国地方では海岸沿いに点々と小規模な窯場を構えた陶人もいました。この画期的な技術を選び、その種を播いたのは、やはり瀬戸内海だったのです。

この展示では、海を渡ってきた陶人たちの第一世代がのこした、エキゾチックな土器を中心に、400点以上を出陳し、日本列島に到達した硬質陶器の黎明期の姿を再現しました。



(上)陶人の使った当て具(出合窯跡)

▲(下)陶人の使った焼き台(大庭寺遺跡)



▲上から、箱形土器(小阪遺跡)・高杯(小阪遺跡)・船形土器(大庭寺遺跡)

◀堂山1号墳出土須恵器

▶四国最古の窯の一つ。三谷三郎池西岸窯景観

